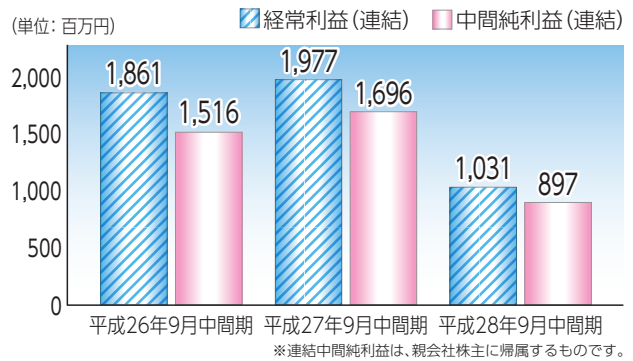


損益の状況(連結)

- ・連結経常収益は、有価証券利息配当金の増加により資金運用収益は増加したものの、株式等売却益の減少等によるその他経常収益の減少や預り資産の売却減少による役務取引等収益の減少を主因に、73億54百万円(前年同期比4億44百万円減少)となりました。
- ・連結経常費用は、新勘定系システムの稼働に伴う営業経費の増加を主因に、63億23百万円(前年同期比5億1百万円増加)となりました。
- ・これらの結果、連結経常利益は10億31百万円(前年同期比9億45百万円減少)、親会社株主に帰属する中間純利益は8億97百万円(前年同期比7億99百万円減少)となりました。

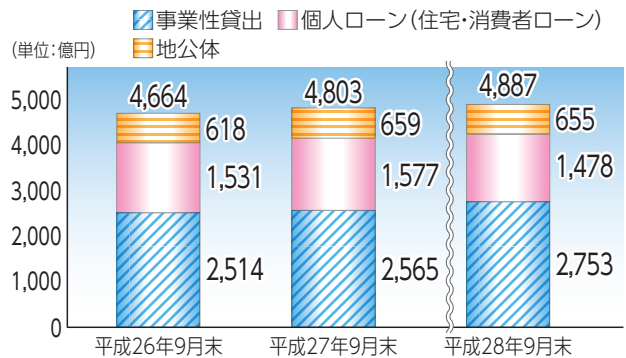


貸出金の状況(単体)

貸出金残高は、事業性貸出が増加したことから、平成27年9月末比83億円増加して4,887億円となりました。

※勘定系システムの更改に伴い貸出金に係る区分表示及び定義について一部変更を行っております。

【新定義】[住宅ローン]……アパートローンを除外
 [消費者ローン]……従来含めていなかった消費性資金(総合口座貸越等)を追加

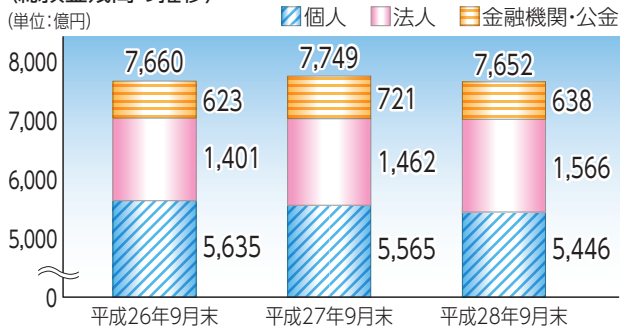


総預金・預り資産の状況(単体)

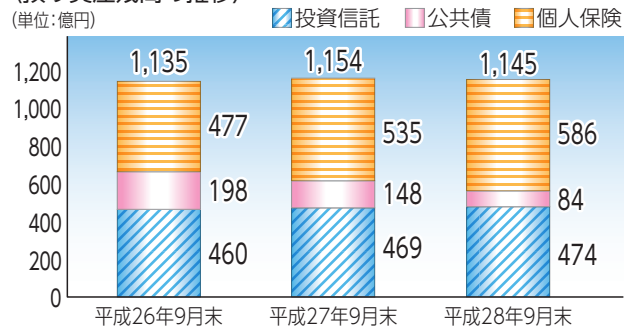
総預金(譲渡性預金を含む)残高は、個人及び金融機関・公金預金が減少したことから、平成27年9月末比97億円減少して7,652億円となりました。

預り資産残高は、マイナス金利の影響による公共債の大幅な減少により、平成27年9月末比8億円減少して1,145億円となりました。

〈総預金残高の推移〉



〈預り資産残高の推移〉



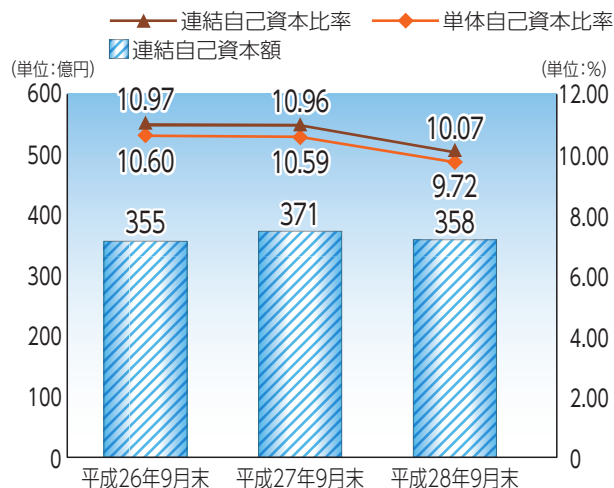
業績ハイライト

©Daito Bank Disclosure

業績ハイライト

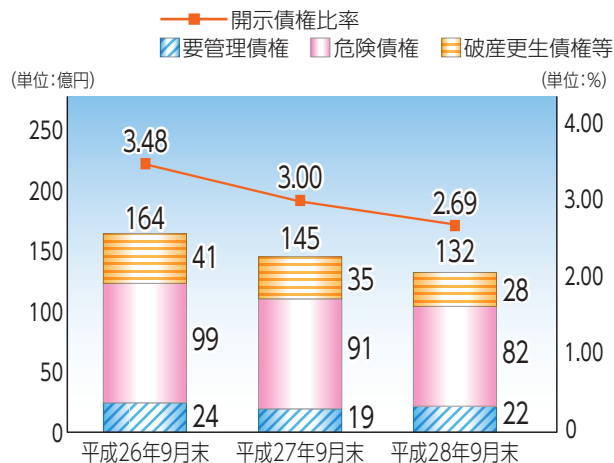
自己資本比率

自己資本比率(国内基準)は、連結10.07%、単体9.72%となり、連結ベースで10%台を確保しております。



開示債権比率(単体)

金融再生法による開示債権比率(単体)は、お取引先さまの経営支援に引き続き積極的に取り組んだことなどから、平成27年9月末比0.31ポイント低下して2.69%となりました。



※単位未満を四捨五入して表示しております。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権

危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権

要管理債権

3カ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権